



知行院便り

発行／宗教法人知行院 東京都世田谷区喜多見 5-19-2 TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000



ごあいさつ

知行院住職 坂本観泰

コロナ禍も二年を超えてしまい、不自由な生活が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

お施餓鬼やお彼岸など、恒例行事が二年続けて縮小自粛を余儀なくされた事は誠に残念でしたが、知行院の万般に亘りまして格別なご芳情を賜りましたこと謹んで感謝申し上げます。

本年は開山伝教大師最澄様千二百年大遠忌でありましたが、その大法会円成の推進を先頭に立ってご教導くださった、第二百五十七世天台座主森川宏映院下が昨年十一月二十二日九十七歳でご遷化されました。

森川座主院下のご遷化に伴い、書写山円教寺大樹孝啓探題大僧正様が天台宗の古来の定めにより即日第二百五十八世天台座主にご上任されました。

私が比叡山におりました期間、森川院下は山下の延暦寺学園にお勤めでしたのでお目にかかる機会は少なかつたのですが、近年、私が大樹大僧正のお手伝いをする様になりましたから、親しくご指導賜る機会を度々頂きました。

長く教鞭を執られていた森川院下は、私共にも丁寧なユーモアを交えてご教示くださりその際の笑顔とお声は脳裏に焼き付いています。

ご高承の通り大樹孝啓新天台座主院下は何度も知行院に足を運んで頂いており、平成三十一年四月廿八日の山門落慶式のお導師をお勤め頂きました。「龍寶山」の山号額は大僧正の揮毫によるものです。

知行院にご縁の深い座主院下の下、新しいステージに邁進する天台宗ですが、当山もそのご縁を大切に精進してまいりたいと思っております。

教えて、住職さん！

第九回 不滅の法灯

お寺のこと、仏教のことで、知っているようでよく解らないことを、ご住職にインタビューして教えていただきます。第九回目は、不滅の法灯について解説していただきました。

(聞き手 編集担当 薄井秀夫)

聞き手 一昨年、全国行脚で不滅の法灯が知行院に来る予定でしたが、コロナ禍のため、残念ながら中止となってしまいました。不滅の法灯は千年以上、灯り続けている灯火だとお聞きしました。

住職 不滅の法灯とは、天台宗をお聞きになった伝教大師最澄さまが、比叡山の山中にお堂を建立し、自ら薬師如来をお彫りになり、そのご室前に灯した灯火です。その時、伝教大師は、「あきらけく 後の仏の御世までも 光伝えよ 法の灯火」と詠まれ、後の世まで光を絶やさないように、教えが伝わり続けることを祈られました。尔来、千二百年絶やさず守り続けられている灯火です。

聞き手 坂本住職は、不滅の法灯をお守りするお役目をされたことがあります。と聞いています。

住職 比叡山に籠山修行で入ってすぐでした。私が比叡山に入ったのは昭和六十二年四月一日です。そして四月四日から



御修法という行事が始まります。延暦寺の行事の中でも、最も重要な法儀で、国の象徴である天皇陛下の御衣をお預かりして、天台座主猊下を初め天台宗の高僧が全国から集まり、五穀豊穰・鎮護国家を祈願する法要です。

比叡山で三年籠山に入ったばかり修行僧が、初めて奉仕するのが、この御修法です。

大学卒業直後で、右も左もわからない状態でしたが、根本中堂内陣で一日三座修行される法要の後片付けと準備を任せられました。更に閉堂時には、不滅の法灯のお世話をすることに。真っ暗な堂内でひかり輝く灯籠の前に行きました。が、あんな間近で、直接、不滅の法灯を見たのは初めてでした。

私も天台宗のお寺に生まれて、子どもの頃から、不滅の法灯がとても大切なものであることは聞かされてきました。天台宗の宗歌でも、伝教大師が唱えた「あきらけく 後の仏の御世までも 光伝えよ 法の灯火」の句が歌われており、天台宗にとって何ものにも代えられない大切な存在であります。

そんな大切な灯籠に、なたね油を注ぎ足し、灯芯を整えると言われたのです。その時はさすがに緊張しましたね。千二百年、灯し続けてきた灯火です。大切な火をうっかり消してしまふのではないかと。しかも、お堂の中は真っ暗

でよく見えないんですよ。

あのときの緊張は今でも鮮明によみがえってきます。

聞き手 油断大敵という言葉は、不滅の法灯から生まれていると聞いたことがあります。

住職 不滅の法灯は、なたね油で灯し続けています。このなたね油を絶やさないようにお守りしているのは、修行僧です。もし、油を絶やしてしまったら、千年以上続いてきた法灯は絶えてしまうのです。油が断たれる、すなわち油断すると、大切な灯火は消えてしまふと言うことです。

三年の修行が終わり、延暦寺一山住職として、総本堂に勤めておりました時に、訪れた参拝の方の案内をすることがありました。特に、修学旅行の生徒さん達から、たびたび、「本当に千二百年、消えていないのか」や「消えたらどうするのか」と、消えた時の事を質問されました。

もちろん火を絶やさないことも大切なのですが、消えないようにどうするか、どうすべきなのかを考えて行動することが大切なのであると、日々ご法話をしていた事を思い出します。日々努力精進する指針として、伝教大師が後進に示された御印であって、火が消えたイコール伝教大師の教えが途絶えるということではありません。

一般的に語られる「油断大敵」は、気を抜くなどという意味合いですが、不滅の法灯を通して伝教大師が説かれているのは、日々の精進を怠るなどという意味であります。そのことを忘れずに精進したいものです。(終わり)

「最澄と天台宗のすべて」を拝観して

上野の東京国立博物館で昨年十月から十一月まで「最澄と天台宗のすべて」の展示が行われました。展示されている文物も貴重なものばかりであり、これを逃すと二度と見ることできかないものも多いと思います、拝観してまいりました。

比叡山に何年も参籠し、また深大寺など各地の天台宗のお寺とも親しくさせていたと思いますが、今回、初めて目にするものも多く、ありがたいことだと感じ入っており、見学しながらも感動しきりでした。

まず入場するとすぐに、一乗寺に納められている国宝「聖徳太子及び天台高僧像」十幅が展示されていました。その美しさもさるものながら、色鮮やかな彩色にも驚かされました。千年をこえて伝えられた肖像画がこれだけ鮮やかな姿で私たちの目の前にあることは、ほんとうにありがたいことだと思います。

嵯峨天皇が伝教大師に授けた勅許や、伝教大師の書についても同様です。お二人の書は、どちらにも実にすばらしいものでした。ただ上手な字ということだけでなく、実に味わい深い趣を感じさせてくれます。

そしてこれらの書も、その筆づかいが実に鮮明に残っていました。紙に墨で書いた書が、千年をこえても、こんな状態で保存されていることに驚きました。

これらはすべて、お寺の中で保存されてきたものです。当然のことですが、もともとは除湿

器など空調設備はありませんでした。それがこうして現代まで受けつがれてきたのです。

歴史的な出来事を示す文物を、千年をこえて目にしたり、鑑賞したりできることは、何とも言えない縁を感じます。これまで脈々と伝わってきた重みを深く感じさせてくれました。

直接、目にすることで、伝教大師が直接語りかけてくださっているようにも思えました。

それから、もうひとつ感動させていただいたのは、深大寺に納められている慈恵大師（元三大師）の坐像です。

実は深大寺では、何度もお勤めさせていただいている御像ですが、御帳ごしでのお勤めだったこともあり、その全体を拝することはありませんでした。

それが今回、初めて全体を拝することができ、その迫力に心震える思いでした。霊験あらたかたというのは、こういうことかと感じた次第です。

天台宗の僧侶でも、なかなか見ることでできない展示が多く、ほんとうにありがたいと思える展示会でした。

書院玄関脇に受付をつくりました

書院の改修が完成いたしましたので、ご報告させていただきます。

既におこしになられた方は、ご覧になって

いると思いますが、書院の玄関の右側に受付窓口を設置しました。

これまで、墓地清掃料を納めに来られた時や、線香を求めに書院の玄関に来られた時に、しばらくの間、玄関でお待ちしてしまいうことが少なくありませんでした。住職の執務室や庫裏から、いくつも扉を開けないと玄関に行けないため、皆さんにはご不便をおかけしておりました。

今回つくった受付窓口は、すぐ裏が執務室になっていたので、すぐに出ることが可能となっています。お待たせする時間も、だいぶ短縮できるのではないかと思います。

また、これまで玄関に来ていただいた方には、上がりかまち框の上から対応させていただいていましたが、高い場所からの対応で、いつも心苦しく感じていました。新しくつくった受付窓口は、中の床を低めにつくってあります



ので、皆さんにあまり圧迫感をかけずにすむと思います。

またインターホンの場所が変わったので、ご注意くださいいただければと思います。

ご来院されましたら、まずは玄関のインターホンを鳴らしていただきます。

インターホンでお応えした上で、すぐに玄関右側の受付窓口に、出て参ります。

法事等で書院におあがりになる用事の方に対しては、インターホン横に新しく自動ドアを設置したので、遠隔操作ですぐに開けさせていただきます。

玄関の三和土には、机と椅子も用意してあります。書院にあがる程ではない、簡単な用事には、そちらで対応させていただきます。今まで以上に、お気軽にお声がけいただけます。

お線香の着火機を電化しました

これまで墓地用線香の着火には、ガス式コンロを使用していましたが、故障が相次ぎ修理もまならない状況となりました。そこで受付が新しくなったのを機に着火機を電熱式に変更しました。

火がでませんので、多少時間がかかる印象を与えますが、着火にかかる時間はむしろ早くなっているようです。

以下に改めて使用方法をご説明いたしますので、参考にされて下さい。

お線香の点け方

- 1 点けたい方を下に向けて機械に入れます
- 2 赤いボタンを1回押します
スイッチが入ると
緑のランプが点灯します
- 3 煙が出るまでお待ちください
機械の電源は勝手に消えるので
そのまま大丈夫です



書院玄関の廊下に漆を塗りました

昨年七月、玄関と大広間の廊下の漆の塗り替えを行いました。

塗りは、栃木県日光の漆職人である株式会社社鈴木美術漆工芸に担当していただきました。親方と弟子2人で、庫裏に泊まり込みで

の作業でした。

作業はまず、古い漆膜を落とす、掻き落としを行い（二日間）、柿渋を引いて生漆を塗り込み、乾いたら、再度柿渋を引いて生漆を塗り込むという作業を七回繰り返し（六日）、さらに生漆の原液を二回塗り込む（一日）という作業で、合計九日間をかけました。

漆は、湿度がないと乾かないため、作業期間はビニールで廊下全体で覆って湿度を保つという大がかりなものとなりました。

また漆は紫外線に変色することと、廊下の窓や玄関のガラスは、紫外線カットのガラスに交換しました。

今年五月のゴールデンウィークには、本堂内陣の漆塗りを行う予定です。連休中四日ほどになると思いますが、本堂が使えなくなりまますので、ご不便をおかけします。法事などを予定されている場合は、ご注意ください。

